

電 気 学 会 々 報 [30-1]

昭和 29 年度事務及び事業報告

昭和 29 年 4 月から 30 年 3 月に至る間において行った事務及び事業の概要を報告する。

1. 会 員

正、准員の異動は次の如くである。

	正 員	准 員	合 計
再 登 録	64	0	64
入 会	612	653	1,265
転 出 入	(+) 585	(-) 585	0
退 会	227	21	248
死 亡	38	0	38
除 名	383	102	485
差 引	(+) 613	(-) 55	(+) 558

29 年 4 月 17 日、前副会長森兵吾君が逝去された。

事業維持員の異動は次の如くである。

	社 数	口 数
入 会	6	6
退 会	21	21
差 引	(-) 15	(-) 15

期末会員数 30 年 3 月末現在の会員数は次表の如くで、前期末に比し 543 名を増加した。

	29 年 3 月末	30 年 3 月末	増 減
名 譽 員	5	5	0
正 員	10,245	10,858	613
賛 助 員	3	3	0
維 持 員	252	237	(-) 15
准 員	1,459	1,404	(-) 55
合 計	11,964	12,507	(+) 543

正員中「特例会費会員」は 262 名、「終身会員」は 591 名である。

2. 会 合 数

本期間の会合数は 1,047 回で、前期 1,088 回に比し 41 回を減少した。

通常総会	1 回
役員会	4 回
理事会	12 回
財務委員会	2 回
編 修 会	12 回
編修幹事会	13 回
ニュース委員会	12 回
広告改善委員会	12 回
賞金委員会	2 回
ハンドブック整備委員会	12 回
大会企画委員会	11 回
大会実行委員会	1 回
電気規格調査会	265 回
調査研究委員会	371 回
研究委員会	193 回
通信教育会	117 回
CIGRE 国内委員会	6 回
そ の 他	1 回
合 計	1,047 回

3. 規程の改正

(1) 29 年 5 月、定款及び本会規則を改正し、会費支払方法を改め、正准員会費及び特例会費の半年又は 1 年前納に依る割引制を廃止した。

(2) 29 年 9 月、調査研究委員会規程を改正し、次の 1 条を加えた。

第 38 条 委員の選定に当り本規程に定められた規正により難い事情があり、理事会の承認を受けた場合は規正外の委員を選定することができる。

(3) 30 年 2 月、賞金、電気学術振興賞委員会規程を改正し、「部門委員会委員長」を「部門運営委員会委員長及び技術委員会委員長」に改めた。

4. 寄附金の受領

29 年 6 月、九州配電株式会社清

算人佐藤篤次郎氏から金 100 万円の寄附があり、これを受領した。

本寄附金の使途については条件がないので、当分の間次の事項に使用することとした。

(1) 当分の間支部主催の専門講習会又は通俗講演会の補助費とする。

(2) 補助金額は講習会 1 回につき 2 万円以内、通俗講演会 1 回につき 1 万円以内とし、1 支部 1 箇年の補助金総額は 2 万円までとする。但し回数をお問わない。

5. 功績の表彰

29 年 5 月、通常総会において次の諸君に賞状及び賞金を贈呈した。

浅 野 賞	森 田 清君
電力功績賞	白川 応則君
電力技術賞	法貴 四郎君
電気学術振興賞	

進 歩 賞 { 広瀬 胖君
後藤 盛一君
有働 竜夫君

同 { 山内 俣君
木村 幸雄君
植田 瑞穂君

同 { 山田太三郎君
日高 一彦君
深尾 毅君

同 { 吉田 確太君
高木 利夫君

論 文 賞 飯島 泰蔵君

同 木村 鍾治君

文 献 賞 林 千博君

6. 大会及び講演会

大 会 29 年 5 月 1 日～4 日、東京において開いた。又 10 月から 11 月にわたり支部大会を開いた。全国大会及び支部大会における一般講演の件数を示すと次表の如くである。

(A) は大会企画委員会で講演論

	一般講演件数		
	(A)	(B)	計
全 国 大 会	591	0	591
東京支部大会	460	0	460
関 西 "	161	19	180
九 州 "	9	36	45
東 北 "	30	15	45
東 海 "	11	70	81
中 国 "	0	12	12
北海道 "	20	6	26
北 陸 "	5	17	22
四 国 "	20	16	36
合 計	1,307	191	1,498

文集を出版したもの (B) は概ね支部で予稿を出版したものを示す。これを前年に比較すると次表の如くである。

	(A)	(B)	計
28 年	1,118	200	1,318
29 年	1,307	191	1,498
増 減	(+) 189	(-) 9	(+) 180

講演会・講習会・見学会 本期間本部及び支部において開いた講演会等は 96 回で前期 99 回に比し 3 回を減少した。この内訳は次の如くである。

	講演会	講習会	見学会	合 計
本 部	1	0	0	1
東京支部	5	2	3	10
関 西 "	6	1	3	10
九 州 "	6	1	4	11
東北 "	9	0	1	10
東海 "	3	1	2	6
中国 "	15	0	1	16
北海道 "	7	0	3	10
北陸 "	5	0	3	8
四国 "	10	0	0	10
茨城支所	2	0	2	4
合 計	69	5	22	96

7. 雑 誌

本期間は次の 12 冊を刊行した。

巻・号	年・冊	発行年月日	総ページ数
74・787	29・4	29・4・10	210
788	5	5・10	160
789	6	6・8	134
790	7	7・9	164
791	8	8・10	182
792	9	9・9	192

793	10	10・8	184
794	11	11・10	176
795	12	12・8	188
75・796	30・1	30・1・12	136
797	2	2・10	150
798	3	3・10	156

- (1) 発行年月日は実際のものを示す。
(2) 総ページ数には綴込広告を含まない。

以上 12 冊の総ページ数は 2,032 ページで、前期 1,850 ページに比し 182 ページを増加した。又一冊平均は 169 ページで、前期 154 ページに比し 15 ページを増加した。欄別のページ数を示すと次の如くである。尚、30 年 1 月号から用紙を上質紙に改めた。

	前 期	本 期	増 減
会長演説・説苑	2	7	(+) 5
資 料 ・ 論 文	619	538	(-) 81
特 輯 論 文	114	79	(-) 35
講 演	60	210	(+) 150
報 告	59	65	(+) 6
討 議 会 記 事	49	54	(+) 5
誌 上 討 論	2	8	(+) 6
寄 書	10	6	(-) 4
技 術 綜 説	224	208	(-) 16
学 界 時 報	168	207	(+) 39
ニ ュ ー ス	52	46	(-) 6
規格・特許紹介	40	44	(+) 4
製 品 紹 介	32	26	(-) 6
調査委員会記事	28	44	(+) 16
会 報	17	16	(-) 1
大会講演題目	15	33	(+) 18
目 次 ・ 会 告	59	75	(+) 16
広 告	300	366	(+) 66
合 計	1,850	2,032	(+) 182

8. 技 術 報 告

本会における各調査研究委員会の成果を発表するため“技術報告”を出版することとなり、本期は次の 4 冊を出版した。

号	発行年月日	ページ数	報告件数
1	29・8・25	36	3
2	10・10	45	2
3	30・1・20	40	2
4	2・25	24	3

9. 出 版

電気工学ハンドブックの重版 29

年 11 月に 4 版を発行した。尚 10 月に「電気工学ハンドブック整備委員会」を設置し、その後の進歩発達事項を約 100 ページ程度に編修、補遺として 5 版に集録すること、この補遺は有料にて頒布することとし準備に着手した。

電気工学年報・29 年版の出版

8 月、27 年版に続く 29 年版を出版した。

昭和 29 年連合大会講演論文集の出版 (29 年 4 月)

同支部連合大会講演論文集の出版 (29 年 10 月)

電気工学ポケットブック・ジュニア版の重版 (29 年 9 月、オーム社より)

電気工学便覧の重版 (29 年 5 月、電気書院より)

電気規格の出版 (初版 5 種、重版 14 種、電気書院より)

10. 電 気 規 格

電気規格調査会の本期間の会合数は 265 回であった。

調査委員会の新設及び解散 新設した委員会は「衝撃試験器」「シンボル」「電鉄用 コンクリートポール」「電圧標準」「試験電圧」の 5 委員会であり、「鉄塔」「送電線用コンクリート柱」の 2 委員会は調査が完了したので解散した。

規格の制定及び改訂 本期間中に制定または改訂した規格は次の 3 種である。

- (1) 避雷器 JEC-131(1959)
 - (2) 電鉄用補助回転機 JEC-132(1954)
 - (3) 直流機 JEC-54 (1954)...
- 直流機 JEC-54 を全面的に改訂

JIS 原案の作成 日本工業標準 (JIS) の原案を作成したものは次の 12 種である。

- (1) 柱上油入開閉器
- (2) 広範囲交流積算電力計

- (3) 精密交流積算電力計
- (4) 普通交流積算電力計
- (5) 耐候型交流積算電力計
- (6) 25 cm エプスタイン試験器
- (7) 指示電気計器の解説
- (8) 配電盤用指示電気計器の寸法
- (9) カバ付ナイフスイッチ
- (10) 器具用ビニールコード
- (11) 遠心力コンクリート柱
- (12) 電車線架線用金具

IEC 原案に対する意見 国際電気標準会議(IEC)の原案に対し本邦としての回答案を作成したものは次の 44 件である。

- (1) Advisability of Giving a Scientist's Name to the Unit of Magnetic Flux Density in the Giorgi System
- (2) International Specification for Tests on Impregnated Paper-insulated Lead-covered Cables (Solid Type) for Voltages of 10 kV to 66 kV
- (3) Note by Mr. Aillert, Chairman of T. C. 30 (Extra High Voltages) on the Upper Voltage Step
- (4) Draft IEC Specification for Oil-filled Paper-Insulated Lead-covered Cables for Voltages up to 275 kV
- (5) Draft International Recommendations for Electric Batteries
- (6) Draft IEC Recommendations Regarding the Colour of Push-Buttons
- (7) Specification for Capacitors for Power Systems -Second Part-
- (8) Letter Symbol for the Unit "Neper"
- (9) Specification for Series Capacitors for Power Systems -First Draft-
- (10) Specification for Power Capacitors for Frequencies between 100 and 20,000 c/s -First Draft-
- (11) Revision of the First Edition (1938) of the International Electrotechnical Vocabulary (Radiology)
- (12) International Electrotechnical Vocabulary(Components Used in Kinetic Control Systems)
- (13) Current Meter Method of Testing Tentative (Hydraulic Turbines)
- (14) Proposal by the Swedish Secretariat for IEC Publication 56 "High Voltage Switchgear", Second Edition Chapter III, "Rules for Strengthening of Insulation"
- (15) Proposal by the Swedish Secretariat for the Items which Should be Include in Chapter IV and Chapter V of IEC Publication 56, Second Edition
- (16) Standardization of Frequencies Above 60 c/s
- (17) Draft International Specification for the Resistance to Heat of Solid Electrical Insulating Materials
- (18) IEC Draft Recommendations for Mercury-Arc Convertors
- (19) Note Drawn up by the Chairman and Secretariat of T.C. 28 Co-ordination of Insulation Regarding the Questions Likely to be Discussed at the Meeting of this Committee, to be Held in Philadelphia.
- (20) Copy of a Letter from the Dansk Standardiseringsrad Dated 15 th March, 1954
- (21) Intermittent Rating (for the Draft of the 6 th Edition of Publication 34)
- (22) Draft of Rules for Lead Accumulator Batteries for Internal Combustion Engines and Internal Combustion Engine Vehicles, Commonly Called Starter Batteries
- (23) International Specification for the Construction of Oil-filled Electrical Apparatus for Dangerous Locations—First Draft—
- (24) Supplement to Chapter I of IEC Publication No. 56, Recommendations for the Unit Testing of Circuit-Breakers for Making-capacity and Breaking-capacity
- (25) ASME Test Codes for Hydraulic Prime Movers
- (26) ASME Power Test Code for Internal Combustion Engines
- (27) Recommendations of the IEC for Apparatus Designed to Make and Break Circuits of a Nominal Voltage up to and Including 1,000 V A.C. and 4,500 V A.C.
- (28) Standards for Plugs and Socket-Outlets for Domestic and Similar General Use
- (29) Rationalization of the Electromagnetic Field Equations
- (30) Recommendations for Ballasts for Fluorescent Lamps
- (31) Draft Standard Sheets (Lamp Caps and Holders)
- (32) Revision of the First Edition (1938) of the International Electrotechnical Vocabulary -Electric Traction-
- (33) Draft International Re-

commendations for Insulated Bushings for A.C. and for Voltages above 1,000 V

(34) Revision of the First Edition (1938) of the International Electrotechnical Vocabulary -Scientific and Industrial Measuring Instruments

(35) Second Edition of Publication 56 IEC Specification for Alternating-Current Circuit-Breakers, Chapter II Rules for Normal Load Conditions

(36) Draft Standard Sheets (Lamp Caps and Holders)

(37) Questionnaire with Regard to the Specification for Series Capacitors for Power Systems

(38) Revised Proposal by the Hungarian Secretariat for the Draft Recommendations for Electrical Measuring Apparatus Indicating Voltmeters, Ammeters, Wattmeters, Ohmmeters, Power-factor Meters, Vibratory (resonant) and Indicating Frequency Meters

(39) Explanation of the Hungarian Secretariat Regarding Document 13 (Secretariat) 206 and the Secretariat Observations on the Comments Received on Document 13 (Secretariat) 201

(40) Questionnaire with Regard to the Specification for Power Capacitors for Frequencies Between 100 and 20,000 Hz

(41) Programme of Tests to be Carried out Before the London Meeting of T.C. 35 and Proposals for Standardization of Further Types of Batteries

(42) Draft IEC Recommendations for Primary Cells and

Batteries

(43) International Specification for Glass Insulators for Overhead Lines with a Nominal Voltage of 1,000 V and Upwards

(44) Draft International Standard of Resistance for Aluminium

調査中の規格 目下制定または改訂につき調査中のものは次の 21 種である (括弧内は調査終了の予定年月を示す)

- (1) 各種電気用語の制定並びに改訂 (30 年 6 月)
- (2) 一般電気用シンボル (30.12)
- (3) 屋内配線用シンボル (30.12)
- (4) 電気通信用シンボル (30.12)
- (5) 記録温度計 (31.3)
- (6) 積算無効電力計 (未定)
- (7) 需用計 (30.12)
- (8) 計器の衝撃試験方法 (30.12)
- (9) 計器用変成器 (31.9)
- (10) 交流油入遮断器 (31.4)
- (11) 空気遮断器 (31.4)
- (12) 鉄製水銀整流器 (32.3)
- (13) 電鉄変電所用高速度遮断器 (未定)
- (14) 中性点用避雷器 (30.9)
- (15) 配電用放出型避雷器 (30.9)
- (16) 電力線搬送用ブロッキングコイル (未定)
- (17) アルミ線接続管 (30.9)
- (18) 電鉄用コンクリートポール (31.3)
- (19) 試験電圧 (未定)
- (20) 電圧標準 (未定)
- (21) 電線の安全電流 (未定)

11. 調査研究

各委員会の活動を適切かつ活潑ならしめるため前年「技術委員会規程」

を廃止して「調査研究委員会規程」を制定し、本期からこの新組織により運営されたのである。

本年度末現在における委員会数は、部門運営委員会 4、技術委員会 13、専門委員会 45、分科会 4 である。この外に他学会との共同設置等特殊の事情により設置されている研究委員会本部に、電蝕防止 (小委員会 5) 誘導調整 (小委員会 2) 送配電線電波障害 (小委員会 7) 送電電圧 (小委員会 2) の 4 委員会、関西支部に妨害電波、送電網異常現象の委員会があり、又九州支部に電気事故防止研究委員会が 7 月に設置された。これ等委員会の会合数は 564 回に達している。

委員会の新設及び解散 本期間に新設された委員会は、電気化学及び電線の 2 技術委員会、電鉄用変電所、電車線架線方式、電気車両、電子装置工業応用、電子装置材料、真空管、放電管、接触材料、角形ヒステリシス、半導体劣化、工業教育、乾式整流器用語、静電気応用、放射能測定、積算計器寿命、搬送周波測定 の 16 の専門委員会と前記九州支部の電気事故防止研究委員会であり、解散したものは、電動応用、含ニッケル合金、半導体材料応用、電気化学、変電所間隔の 5 専門委員会と水銀整流器実態調査分科会である。

調査完了事項 調査を完了したものは次の通りである。このうち一部は会誌又は技術報告に発表 (括弧内に附記) 一部は仮印刷として関係の向に頒布した。この外、電気工学年報の執筆、連合大会部門講演及び特別講演、雑誌の技術解説執筆、専門講習会講師等の選定並びに推薦に協力した。

- (1) 電気工学における半導体の応用 (会誌 29 年 11 月、技報 1 号)
- (2) 板状試験片の前処理及び湿

- 度調節法に関する検討(会誌 29 年 11 月, 技報 1 号)
- (3) コンデンサ型計器用変成器(会誌 同 11 月, 技報 1 号)
- (4) 誘導調整委員会電力小委員会中間報告第 1 報(会誌 同 12 月, 技報 2 号)
- (5) 誘導調整委員会電鉄小委員会中間報告第 1 報(会誌 同 12 月, 技報 2 号)
- (6) 電気絶縁材料の誘電正切及び誘電率試験方法通則(案)(技報 3 号)
- (7) 含ニッケル合金材料の現状(会誌 同 10 月, 技報 3 号)
- (8) 自動制御標準用語(案)(会誌 同 12 月, 技報 4 号)
- (9) 磁気増幅器標準用語(案)(会誌 30 年 3 月, 技報 4 号)
- (10) 電気化学工業における停電, 節電対策(技報 4 号)
- (11) 電蝕測定器に関する資料(技報 5 号)
- (12) レールボンドの調査研究(その 3)(技報 5 号)
- (13) 水銀整流器実態調査報告(技報 6 号)
- (14) 電気絶縁材料の絶縁抵抗試験方法通則(案)
- (15) 固体絶縁材料の商用周波数による高電圧小電流耐アーク性試験方法通則(案)
- (16) 珪素鋼板受入時の鉄損試験規格案とその審議経過
- (17) 定尺珪素鋼板試験装置
- (18) 海外学会の調査
- (19) 同期機温度上昇値に対する調査資料
- (20) π 型円線図法に関する調査
- (21) 電熱需用実態調査
- (22) 25 cm エプスタイン試験器の比較試験(会誌 29 年 4 月)
- (23) 珪素鋼板磁性の温度特性(会誌 同 7 月)
- (24) ビン型支持がいしの衝撃閃絡電圧の検討(会誌 同 4 月)
- (25) 電力系統におけるマイクロ波の応用及び工業用テレビジョン(討議会記事)(会誌-同 9 月)
- (26) 第 4 回電力懇談会記事(会誌 同 9 月)
- (27) 自動周波数制御(討議会記事)(会誌 30 年 1 月)
- (28) 電力用遮断器(討議会記事)(会誌 同 6 月)
- (29) 最近の航空機の電気設備
- (30) 多色輪転機
- (31) 映画照明の研究
- (32) カラーフィルム及び新光学レンズの研究
- (33) 零相三次巻線
- (34) 高信頼真空管の名称, 定義
- (35) ウエルダー用材料
- (36) 湿気に関する術語, 記号, 単位
- (37) IEC Transformer Standard の検討
- (38) 変圧器試験規格
- (39) 水銀アーク変換装置規格
- (40) 官庁立会試験電圧(中性点絶縁低下の場合)
- (41) 遮断器を挟む異相地絡遮断の苛酷度
- (42) 系統分離用遮断器の回路条件
- (43) 避雷器に関する文献
- (44) メタルクラッド開閉装置とキュービクル開閉装置の定義
- (45) 水力発電所の工事実績による所要工事用電力, 電力量の推定
- (46) 遠隔測定装置
- (47) 無効電力の符号
- (48) 送電線用鉄塔に強力鋼材の使用
- (49) 長幹がいし及び大型がいし
- (50) 電気工作物規程—電蝕関係の検討
- (51) 沃度電量計の改良
- (52) 28 年度腐蝕鉄管(ガス, 水道)調査統計
- (53) 鉄管塗装の現状と防蝕効果
- (54) 埋没高圧ガス鋼管の電気防蝕
- (55) 英国製避雷管の特性試験
- (56) 中和変圧器の理論的検討
- (57) 誘導電圧予測算定の一方法
- (58) 送配電線からの障害波の測定
- (59) 障害波の各種の特性
- (60) 障害電波に関する基礎実験及びその検討
- (61) 送電線より発生する障害電波実態調査の測定の部
- (62) 配電線より発生する障害電波の実態調査
- (63) 同 基礎的調査測定
- (64) 四国一次系統送電電圧の決定
- (65) 絶縁協調表
- (66) 10, 20, 30 kV の昇圧電圧
- (67) IEC の絶縁協調案
- (68) 28 年度通信線雷実測
- (69) 29 年度雷実測(配電線及び通信線関係)
- (70) 大口工場(業態別)原因別事故発生状況
- 調査中の事項** 目下調査中の主な事項は次の通りである。(括弧内は調査完了の予定年月を示す)
- 技術委員会及び専門委員会**
- (1) 海外学会の組織及び運営(30 年 7 月)
- (2) 内外研究所の研究管理(未定)
- (3) 工業教育の改善(31.3)
- (4) 計測器の振動, 衝撃の実情と試験法(31.3)
- (5) 通信以外分野に使用される電子装置(未定)
- (6) ガス入りでない管球(未定)
- (7) 放電管自体の技術(未定)
- (8) 真空管材料並びに材料技術(未定)
- (9) 配電電圧の検討(30.7)
- (10) 照明生理(30.7)
- (11) 通信工学紹介論文の選定(未定)

- (12) 演算子法公式集の編集 (30.12)
- (13) 自動制御応用面の実態 (未定)
- (14) 放電に関する数表並びに公式の編集 (31.3)
- (15) 継電器変圧器 (零相 5 脚鉄心 PT, B 5 規格過電流定数) (30.12)
- (16) 内外の最近の PT, CT の進歩 (30.12)
- (17) 電力需給用の PD (30.12)
- (18) 電子管式工業計測器における電子管の使用状況 (30.10)
- (19) 重電機関係における電子管の使用状況 (30.10)
- (20) 化学関係における電子管の使用状況 (30.10)
- (21) 高信頼管の品種 (未定)
- (22) 高信頼管に対する要求事項 (未定)
- (23) 高信頼管の試験法 (未定)
- (24) 放電管ポケットブックの編集 (30.12)
- (25) 弱電用接点材料 (30.9)
- (26) 摺動用材料 (30.7)
- (27) 半導体の劣化 (32.3)
- (28) Fe-Ni (50%) 合金, 角形ヒステリシス材料の現況 (30.9)
- (29) 有機材料劣化文献 (31.3)
- (30) ウェザーオメーターの検討 (31.3)
- (31) 弗素樹脂の劣化 (31.3)
- (32) 湿度計 (30.10)
- (33) 湿度測定装置 (30.12)
- (34) 湿度特性 (31.3)
- (35) 湿気拡散, 透湿 (31.3)
- (36) 電気的性質と湿気 (31.3)
- (37) 同期機のリアクタンス値 (30.6)
- (38) 誘導機規格 JEC-37 の検討 (30.10)
- (39) 二重かご形電動機特性算定法 (30.10)
- (40) 変圧器の運転指針 (30.10)
- (41) 変圧器の騒音 (30.10)
- (42) 直列機器の衝撃電圧試験法 (30.6)
- (43) 遮断器の等価試験 (31.3)
- (44) 遮断器の実用性向上 (30.7)
- (45) 開閉サージ, 長時間継続電流に対する避雷器の応動特性 (30.12)
- (46) ケーブル回路用避雷器 (31.3)
- (47) 気象条件の変化による避雷器特性の応動性 (31.3)
- (48) 水銀整流器化成促進法 (30.6)
- (49) 磁気増幅器の応答時間 (30.7)
- (50) 磁気増幅器用鉄心 (30.7)
- (51) 海外の配電盤規格 (未定)
- (52) 汚損がよいの閃絡特性及び試験法 (32.3)
- (53) がいしの注水試験法 (32.3)
- (54) 交流閃絡電圧の変動原因 (32.3)
- (55) 水車及び水車発電機の過速度試験及び現場過速度状況 (30.6)
- (56) 水車ケーシング空気抜弁 (30.12)
- (57) 水車発電機の部品名称の統一 (30.10)
- (58) 水力発電所の配管, 色別け標準の作成 (30.9)
- (59) 自動周波数制御 (30.10)
- (60) 送電線の標準がよい個数及び絶縁間隔 (30.8)
- (61) 送電線のコロナ損 (30.8)
- (62) 配電線電圧調整 (30.6)
- (63) 電灯負荷の需用率, 負荷率 (30.8)
- (64) 電力線搬送伝送基準 (30.6)
- (65) 給電用語 (31.3)
- (66) 電鉄用変電所の配置と容量 (30.8)
- (67) 電車で主電動機の使用能率 (30.12)
- (68) シンプルカタナリー方式の再検討 (未定)
- (69) ゲルマニウム及びシリコンダイオードを除いた乾式整流器の標準用語 (未定)
- (70) 乾式整流器の構成記号 (未定)
- 電蝕防止研究委員会**
- (71) 軌条漏洩電流の簡易測定法 (30.6)
- (72) 同 排流接続の施設基準 (31.6)
- (73) コンクリート枕木の電蝕防止 (30.12)
- (74) コンクリートボールの電蝕 (30.12)
- (75) 鉛被電蝕測定法 (31.3)
- (76) 鉛被の化学腐蝕 (32.3)
- (77) 鉛被の腐蝕度試験法 (32.3)
- (78) 防蝕ケーブル, テープ, 塗料 (31.3)
- (79) 流電陽極によるケーブルの防蝕法 (31.3)
- (80) 排流器及び排流法 (32.3)
- (81) 29 年度腐蝕鉄管の調査 (30.9)
- (82) 埋設鉄管の電気防蝕法 (30.9)
- (83) 鉄管塗装の使用基準と試験法 (30.9)
- (84) 鉄管の対地電位並に管内電流の測定 (30.9)
- 誘導調整委員会**
- (85) 誘導調整基準の確立 (i. 誘導電圧軽減機器, ii. 通信機器の絶縁耐力, iii. 人体の安全性, iv. その他必要事項の基準作成) (31.3)
- (86) 水銀整流器関係誘起電圧及び電流 (31.3)
- (87) 同 被誘導電圧 (31.3)
- (88) 同 平衡度 (31.3)
- (89) 同 防止装置 (31.3)
- 送配電線電波障害調査委員会**
- (90) 送電線関係各種電波障害調査結果の検討 (31.3)
- (91) 配電線関係各種電波障害実態調査結果の検討 (31.8)

- (92) 電波障害による雑音発生
の理論的考察 (30.6)
- (93) 雑音高周波の伝播理論
(30.6)
- (94) 雑音電界強度測定器 (30.6)
- (95) 送電線関係障害電波実態の
気象条件による修正 (30.6)
- (96) 交叉, 併行の地線への誘導
(30.6)
- (97) 送電線における雑音諸特性
(30.6)
- (98) 配電線における雑音諸特性
(30.6)
- (99) がいし及び金具より発生す
る高周波雑音特性 (30.6)
- (100) 配電線器具より発生する雑
音及び防止策 (30.6)
- 送電電圧委員会**
- (101) 送電電圧標準 (30.6)
- (102) 避雷器定格 (30.6)
- (103) 10, 20, 30 kV 級絶縁階級
(30.6)
- (104) 中性点接地方式の定義
(30.6)
- (105) 中性点直接接地の場合の絶
縁協調 (未定)
- (106) 絶縁協調の基準としての避
雷器階級 (未定)
- (107) 線路ががいし最小絶縁巨離
(未定)
- 妨害電波研究委員会**
- (108) 螢光灯によるラジオ雑音
(31.3)
- (109) 高周波ウェルダーク及びミ
シンによる妨害対策 (32 年中)
- (110) 自動車点火栓による雑音
(31 年中)
- (111) テレビジョン受像妨害 (32
年中)
- (112) 超高圧送電線のコロナ雑音
(31 年中)
- (113) 電車による雑音 (31 年中)
- 送電網異常現象研究委員会**
- (114) 配電線用避雷器の保護効果
(30.7)
- 電気事故防止研究委員会**

- (115) 電気事故の内高率のもの
の分析 (30.6)

12. 通信教育

本期間に発行した教科書は次の如
くである。

初版教科書 (5 種)

- (1) 電気磁気測定 II
- (2) 電気材料 III
- (3) 電気関係法規解説
- (4) 電気機械 I (工高講座)
- (5) 同 II (")

重版教科書 (26 種, 累計 90 版)

- (1) 電気磁気学 (15~21 版)
- (2) 電気回路論 (10~14 版)
- (3) 放電現象 (8~10 版)
- (4) 原子物理学・物性論 (6, 7
版)
- (5) 過渡現象論 (5~9 版)
- (6) 電気磁気測定 I (5~8 版)
- (7) 電気磁気測定 II (2~4 版)
- (8) 変圧器 (9~12 版)
- (9) 電気機械設計概論 (6~8 版)
- (10) 誘導機 (6~10 版)
- (11) 同期機 (6~8 版)
- (12) 水銀整流器 (4~6 版)
- (13) 変電工学 (5~7 版)
- (14) 水力編 I (6~9 版)
- (15) 水力編 II (2, 3 版)
- (16) 送電編 I (10~13 版)
- (17) 送電編 II (9~11 版)
- (18) 送電編 III (7, 8 版)
- (19) 配電工学 (8~11 版)
- (20) 電気鉄道 I (7, 8 版)
- (21) 電気鉄道 II (5, 6 版)
- (22) 電気材料 I (6~8 版)
- (23) 電気材料 II (4~7 版)

工高講座

- (24) 電磁事象 I (4~8 版)
- (25) 電磁事象 II (3~6 版)
- (26) 電気機械 I (2 版)

受講生と終了者数 本期間の入講
者は大学 1,323 名 (累計 9,242 名),
工高 525 名 (累計 1,281 名), また
本年度受講終了者は 168 名 (累計
722 名) である。

文部省検定教科書 (工高講座)

「電磁事象 I」は前年度検定教科書
となったが,本年度においては「電磁
事象 II」が検定教科書となった。ま
た「電気機械 I」及び「電気機械 II」
は内容検定を得た。

通信教育行事 昭和 29 年 6 月 9
日文部省において通信教育表彰式が
あり,本講座からは送配電工学終了
者 3 名が表彰を受けた。朝日新聞 P
R 広告 2 回を実施した。

13. 海外関係

CIGRE 昭和 29 年 5 月 12 日
~22 日フランスのバリにおいて
CIGRE (国際大送電網会議) 第 15 回
の総会があり,わが国から 7 編の論
文を出し,福田節雄,宮本茂業,吉
川平八郎,木村久男,大森武司,中
島吉雄,福田舜一,青山豊の 8 氏が
出席した。(会誌 30 年 3 月号報告
参照)

IEC 昭和 29 年 9 月 1 日~16
日,米国フィラデルフィアで IEC
(国際電気標準会議) 50 周年大会が
あり,丹羽保次郎,山内二郎,後藤
以紀,藤田文太郎,松井正二,岩片
秀雄,鬼頭史城,馬淵 治,和田重
暢,榎本俊也,ほか 1 名,合計 11
氏が出席した。(会誌 30 年 1 月号
報告参照)

ECAFE 昭和 29 年 10 月 6 日
~11 日東京において ECAFE (アジ
ア及び極東経済会議) 電力小委員会
が開かれた機会に 10 月 12 日,東
京品川のプリンスホテルに会議出席
外人を招き懇談会を開いた。(会誌
30 年 1 月号ニュース参照)

国際照明委員会 照明学会,日本
電気協会及び本会で日本照明委員会
を設置し,国際照明委員会に加盟し
ていたが,大戦のため中絶のところ,
今回日本照明委員会を再建し,目下
国際照明委員会へ再加入の途中で
ある。

14. そ の 他

オーム百年祭 昭和 29 年 7 月 6 日は Georg Simon Ohm の死後 100 年にあたるので電気関係諸団体の共催で東京銀座の山葉ホールに記念式典、記念講演を行い、夜は電気クラブで晩さん会を催した。(会誌 29 年

8 月号ニュース参照)

エジソン電燈發明 75 年記念祭

昭和 29 年 10 月 21 日はエジソンが白熱電燈を發明してから 75 年にあたるので、電気関係諸団体の共催により電気クラブで記念祭を催した。(会誌 29 年 11 月号ニュース参照)

役 員 改 選 報 告

会長石川潔、副会長山下英男、島山四男、総務理事富山順二、会計理事三田昇、編修理事尾佐竹徇、永井勝三、調査理事田中直治郎の諸君が、30 年 5 月通常総会を以て任期満了退任となるので、改選の結果次の諸君が当選した。

会 長 駒形 作次 (工技院)
副 会 長 古賀 逸策 (東大)
同 林 重憲 (京大)
総務理事 下村 尚信 (東芝)
会計理事 金岩 芳郎 (同)
編修理事 百田 恒夫 (電試)
同 山村 昌 (東大)
調査理事 栗屋 潔 (東工大)

この選挙における投票総数は 3,906 票、投票率 40.5% で、投票率は前年度 41.3% に比し 0.8% を減少した。

各候補者の得票数は次の如くである。(2 票以下省略)

会長 1,541 駒形作次, 1,391 加藤信義, 907 渡辺寧 副会長 1,507 古賀逸策, 1,166 後藤以紀, 966 埴野一郎 副会長 1,750 林重憲, 1,014 浅見義弘, 755 原田恭介 総務理事 1,637 下村尚信, 1,193 関四郎, 910 高島正一 会計理事 1,559 金岩芳郎, 1,441 友田三八二, 736 木野二郎 編修理事 1,907 斎藤成文, 1,755 百田恒夫, 1,708 山村昌 1,585 西尾秀彦 調査理事 1,632 栗屋潔, 1,143 佐藤勇吉, 1,087 山本広三郎 (編修理事当選者斎藤成文君海外留学のため辞任し、次点山村昌君が当選した)

支部役員 半数改選の当選者は次の如くである。(〇印は本部評議員兼任者、*印は支部長推薦評議員)

東 京 支 部

支部長 広田 友義 (早大)
庶務幹事 朽木 雄蔵 (電力中研)
会計幹事 高木 利夫 (東京電力)
評議員 磯部孝 (東大) 臼井吉夫 (東京電力) 尾島学二 (三菱) 〇田中剛三郎 (オーム社) 〇谷合清一 (東芝) 中野義映 (東工大) 〇沼野鉄雄 (国鉄) 〇林卓 (日電) 三木七郎 (放研) 〇和田弘 (電試)

関 西 支 部

支部長 大庭 忠夫 (住友電工)
庶務幹事 杉村正三郎 (京阪神急行)
会計幹事 西原 宏 (京大)
評議員 青木精太郎 (京阪電鉄)
佐藤芳夫 (神戸大) 平井平八郎 (大阪市大) 〇矢幡源三 (島津製作所) 〇岐美忠雄 (安川電機)

九 州 支 部

支部長 藤田 重明 (九工大)
庶務幹事 入江富士男 (九大)
会計幹事 大島 祐吉 (九州電力)
評議員 石橋文男 (熊本大) 〇市川真人 (九工大) 橋本邦二郎 (九州電力) 藤井政男 (旭化成) 吉川徳夫 (三菱造船)

東 北 支 部

支部長 島山 四男 (東北大)
庶務幹事 及川剛一郎 (東北電力)

会計幹事 津屋 昇 (東北大)
評議員 安濃恒友 (山形大) 〇大河原旭 (東北電力) 門脇又男 (秋田大)
*高崎卓二郎 (東北大)

東 海 支 部

支部長 金原 淳 (名大)
庶務幹事 石野 幸三 (名工大)
会計幹事 佐尾 和夫 (名大)
評議員 浅野猶竜 (日本碍子) 市野昌次 (名古屋通産局) 北島寅夫 (中部電力) 〇三好保憲 (名工大) 山本賢三 (名大)

中 国 支 部

支部長 岡田 邦彦 (中国電力)
庶務幹事 中村 正三 (広島大)
会計幹事 岡沢 哲夫 (中国電力)
同 内崎 敏 (広島通産局)
評議員 時田清太郎 (中国電気協会) 〇真鍋徳男 (中国電工) 深山好美 (中国電力) 渡辺善一 (三菱電機) 渡辺襄 (広島大) *中野昌幸 (鉄道)
会計幹事岡沢氏は辞任した杉本均氏の後任で任期は次の通常総会まで

北 海 道 支 部

支部長 村井 五郎 (北海道電力)
庶務幹事 末広 英二 (〃)
会計幹事 田中 英司 (〃)
評議員 〇林邦雄 (北大) 山田達 (北海道電力) 渡辺紋十郎 (電試)

北 陸 支 部

庶務幹事 田中 信義 (金沢大)
会計幹事 斎藤 金一 (富山大)
評議員 大和田盛胤 (関西電力) 加藤竜造 (北陸電力) 〇長田晋吾 (福井大) *篠原 一恭 (北陸電力)

四 国 支 部

庶務幹事 岡林 末広 (四国電力)
会計幹事 原田 尚文 (徳島大)
評議員 荒木節雄 (四国通産局) 小倉祐三 (高知果電氣局) 〇片岡恒 (愛媛大) 後藤万年 (住友共電) 馬淵信義

(四国電力) 前田広義(住友化学)
(荒木氏は任期1年)

第 43 回通常総会

昭和 30 年 5 月 21 日午後 2 時 20 分から日本鉱業会講堂において開催、出席正員 2,132 名(中委任状 2,075 名)石川会長司会のもとに次の件を執行した。

(1) 昭和 29 年度事務及び事業報告

(2) 昭和 29 年度収支決算報告

(3) 昭和 30 年度予算の件

(4) 浅野賞、電力賞、電気學術振興賞の贈呈

(5) 役員改選報告

(6) 新会長挨拶

(1) は富山総務理事、(2) は三田会計理事から説明があり、いずれも原案を承認した。

(3) は三田会計理事から説明があり、原案を可決した。

(4) は会長から別記諸君に賞状及び賞金を贈呈、これに対し、星合、伊藤、埴野、村田(振興賞総代)の諸君から夫々謝辞が述べられた。

(5) は富山総務理事これを報告、終って石川会長から退任役員を代表して挨拶があり、古賀新副会長から会員を代表しての謝辞が述べられた。次で駒形新会長の就任の挨拶があり 3 時 55 分総会を終了した。

特別講演会 総会に引つづき下記講演があり、5 時 30 分終了した。

1. 原子力に関する欧米視察談
工業技術院長 駒形 作次君

功 績 表 彰

第 43 回通常総会において、次の授賞が行われた。

浅 野 賞

東京大学 星合 正治君

電力功績賞

関西電力 伊藤 竜平君

同 黒須 仁三君

昭和 29 年度会計報告

(1) 一般会計、調査会計、出版会計

収 入 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
会 費 収 入	3,501,477	3,830,280	6,601,796	13,933,553
正員会費	3,259,727	0	6,048,000	9,307,727
准員会費	0	0	451,826	451,826
特例会費	65,125	0	0	65,125
入 会 金	176,625	0	0	176,625
終身会員寄附金	0	0	101,970	101,970
維持員会費	0	3,830,280	0	3,830,280
利子収入	198,728	0	0	198,728
雑誌収入	0	0	686,221	686,221
図書収入	0	0	6,014,599	6,014,599
広告収入	0	0	6,432,560	6,432,560
補助金	0	0	0	0
雑収入	2,230	0	0	2,230
繰越金	0	605,576	0	605,576
合 計	3,702,435	4,435,856	19,735,176	27,873,467

支 出 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
事 務 所 費	75,858	71,568	374,200	521,626
事 務 費	977,692	878,244	3,762,626	5,618,562
会 議 費	110,972	55,570	55,570	222,112
通 信 費	121,556	60,850	60,850	243,256
集 金 費	354,651	70,900	283,740	709,291
旅 費	12,646	6,260	6,260	25,166
職員退職給与金	274,000	0	0	274,000
都 税	8,400	0	0	8,400
支 部 費	1,052,000	0	0	1,052,000
大 会 費	50,000	0	0	50,000
賞 金 費	170,771	0	0	170,771
諸 会 費	30,960	0	0	30,960
規格調査費	0	1,434,681	0	1,434,681
調査研究委員会費	0	1,304,714	0	1,304,714
雑誌出版費	0	0	11,807,692	11,807,692
図書出版費	0	0	4,004,736	4,004,736
合 計	3,239,506	3,882,787	20,355,674	27,477,967
収支過不足	(+)462,929	(+)553,069	(-)620,498	(+)395,500

(註) 一般会計剰余金は特別積立金に繰入れ、調査会計剰余金は次年度に繰越す。

電力技術賞

早稲田大学 埴野 一郎君

電気学術振興賞進歩賞

- (1) 直流 150 万ボルト高電圧発生装置を含む超高压研究所の完成

古河電工 池田 敬三君

同 明楽桂一郎君

富士電機 穴原 良司君

三菱電機 大木 正路君

- (2) 電力用水銀周波数変換装置の完成

東京芝浦電気 永井 勝三君

同 石崎 達弥君

- (3) 強力懸垂碍子の完成

日本碍子 村田 八束君

同 新宮 行太君

- (4) 電子計算機の研究並に完成

東京大学 山下 英男君

同 雨宮 綾夫君

東京芝浦電気 三田 繁君

電気学術振興賞論文賞

- (1) 密閉容器中における放電電圧変動の原因について

衝撃電圧による放電率を高めるために必要な電圧印加回数について

衝撃電圧による放電率の決定法について

日立製作所 笈川 俊雄君

- (2) 磁気録音方式における直線歪の検討

磁気録音における歪の諸問題

東北大学 佐藤利三郎君

同 岩崎 俊一君

同 永井 健三君

- (3) 電気絶縁材料の誘電特性並にその測定法の研究

電気試験所 高橋 茂君

電気学術振興賞文庫賞

- (1) 送電線における開閉異常電圧の突測

電気試験所 法貴 四郎君

同 木谷 芳一君

(2) 出版会計損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
収 入	19,735,176	支 出	20,355,674
期末未収入金	951,828	期首未収入金	518,663
期 末 商 品	2,281,984	期 首 商 品	2,339,889
合 計	22,968,988	合 計	23,214,226
		収 支 不 足 金	245,238

(3) 出版会計利益金処分

本 期 不 足 金	245,238
前 期 繰 越 金	624,898
差引後期繰越金	379,660

(4) 欠 損 処 分

死亡、退会、除名による未納会費
で、収入の見込のない正員会費
352,880 円、准員会費 66,270 円
合計 419,150 円を欠損処分とする。

昭和 28 年度会計報告の一部修正

- (1) 本会誌 29 年 7 月号 885 ページ掲載の「出版会計損益計算書」中「期末商品」1,768,833 円は税務署に依って、2,339,889 円に査定されたので、「収入合計」23,653,092 円が 24,224,148 円となり、「収支不足金」615,579 円が 44,521 円となった。

- (2) この修正に伴ない、「出版会計利益金処分」中、「本期不足金」615,577 円が 44,521 円となり、「差引後期繰越金」53,842 円が 624,898 円となった。

- (3) また貸借対照表は次の如く修正される。

- (イ) 資産の部、商品の収益及び計 1,768,833 円を 2,339,889 円と修正。

- (ロ) 同 合計の収益 2,287,496 円を 2,858,552 円と修正。

- (ハ) 同 合計の計 15,313,527 円を 15,884,583 円と修正。

- (ニ) 負債の部、繰越金の収益 53,842 円を 624,898 円と修正。

- (ホ) 同 繰越金の計 659,418 円を 1,230,474 円と修正。

- (ヘ) 同 合計の収益及び計 夫々(ロ)、(ハ)と同様に修正。

- (4) 通信教育特別会計の貸借対照表の中「貸倒積立金」を削除し、「納税積立金」447,476 円を 449,768 円に、「繰越金」203,978 円を 332,386 円と修正。

ウイナー教授の招聘

米国マサチューセッツ工科大学数学科教授ウイナー博士は、去る 5 月中旬米国を出発欧州を経由して来る 9 月インドのカルカッタに到着、統計研究所の招聘により明年春まで滞在の後帰米される。

博士の業績の顕著なことは世界的に認められている所で、自動制御理論、情報理論、脳波に関する理論等はすべて博士の卓抜な数学

的創意に端を発して発達したものと認められている。

については、明春インドから帰米の途次我国に立寄って貰い、講演会、討論会等を催して直接博士に接する機会を設けることは我国の文化向上に寄与する所が少なくないと考え、目下関係 8 学会及び日本放送協会と博士夫妻の招聘につき協議を進めている。

(5) 調 査 委 託 費

種 別	収 入			支 出	収 支 残 次年度繰越
	繰 越 金	受 入 金	合 計		
(1) 珪素銅板	143,738	0	143,738	42,250	101,488
(2) 電気鉄道	6,621	0	6,621	0	6,621
(3) 電蝕防止	(-) 47,144	310,000	262,856	282,066	(-) 19,210
(4) 誘導調整	37,293	700,000	737,293	579,221	158,072
(5) 電波障害	325,717	1,050,000	1,375,717	1,410,017	(-) 34,300
(6) 送電電圧	20,116	420,000	440,116	459,312	(-) 19,196
(7) C I G R E	107,083	651,200	758,283	624,690	133,593
合 計	593,424	3,131,200	3,724,624	3,397,556	327,068

(6) 御下賜金, 委託金, 寄附金利子

種 別	収 入			支 出	収 支 残 次年度繰越	使 途
	繰越金	利 子	計			
(1) 御 下 賜 金	126	18	144	0	144	
(2) 池 田 資 金	3,673	426	4,099	0	4,099	
(3) 大 井 資 金	1,922	186	2,108	0	2,108	
(4) 浅 野 資 金	44	972	1,016	900	116	賞 金
(5) 広 部 資 金	1,150	152	1,302	0	1,302	
(6) 橋 本 資 金	10,259	2,816	13,075	0	13,075	
(7) 鳥 潟 資 金	1,002	180	1,182	0	1,182	
(8) 岸 資 金	2,826	900	3,726	0	3,726	
(9) 岩 垂 資 金	65,711	41,652	107,363	10,000	97,363	研 究 費
(10) 大同電力資金	3,198	2,700	5,898	0	5,898	
(11) 日 立 資 金	103,821	35,000	138,821	100,000	38,821	講習会, 通俗講演会補助
(12) 関西共同火力資金	1,128	900	2,028	0	2,028	
(13) 富士電力資金	937	1,200	2,137	0	2,137	
(14) 京浜電力資金	2,365	3,600	5,965	0	5,965	
(15) 日本発送電資金	425,177	487,500	912,677	0	912,677	
(16) 東北配電資金	42,500	85,000	127,500	60,000	67,500	賞 金
(17) 九州配電資金	0	0	0	40,000	(-) 40,000	講習会補助
合 計	665,839	663,202	1,329,041	210,900	1,118,141	

(7) 連 合 大 会

種 別	収 入			支 出			収 支 過 不 足		
	本会扱	通信扱	計	本会扱	通信扱	計	本会扱	通信扱	計
大会企画委	(1) 1,283,875	(3) 1,690,906	2,974,781	(4) 2,319,751	1,555,490	3,875,241	(-) 1,035,876	135,416	(-) 900,460
29 年 全 大	(2) 210,138	0	210,138	333,245	0	333,245	(-) 123,107	0	(-) 123,107
合 計	1,494,013	1,690,906	3,184,919	2,652,996	1,555,490	4,208,486	(-) 1,158,983	135,416	(-) 1,023,567

(1) 前年度繰越損金 656,146 円を差引く。(2) 前年度繰越損金 21,305 円を差引く。

(3) 前年度繰越金 9,166 円及び本会支出金 400,000 円を含む。(4) 通信学会へ支出金 400,000 円を含む。

(8) 貸 借 対 照 表

(昭和 30 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部			
科 目	公 益	収 益	計
有 価 証 券	4,145,009	0	4,145,009
信 託 預 金	835,498	0	835,498
投 資 信 託	3,500,000	0	3,500,000
定 期 預 金	20,000	0	20,000
銀 行 預 金	2,781,790	0	2,781,790
振 替 貯 金	321,197	0	321,197
現 金	52,092	0	52,092
備 品	6,507	0	6,507
通信教育繰入金	800,000	0	800,000
仮 払 金	101,662	0	101,662
立 替 金	471,574	0	471,574
商 品	0	2,281,984	2,281,984
未 収 入 金	0	951,828	951,828
連合大会勘定損金	1,158,983	0	1,158,983
合 計	14,194,312	3,233,812	17,428,124

負 債 の 部			
科 目	公 益	収 益	計
御 下 賜 金	200	0	200
基 本 財 産	171,682	0	171,682
委 託 金	20,418	0	20,418
寄 附 金	7,794,213	0	7,794,213
特 別 積 立 金	2,271,363	0	2,271,363
調 査 準 備 金	60,443	0	60,443
職員退職給与積立金	1,124,427	0	1,124,427
繰 越 金	553,069	379,660	932,729
図 書 館 勘 定	9,239	0	9,239
調査委託費勘定	327,068	0	327,068
資金利子勘定	1,118,141	0	1,118,141
雑 勘 定	19,825	0	19,829
納 税 預 り 金	202,295	0	202,295
仮 受 金	521,929	0	521,929
出版会計流用金		2,854,152	2,854,152
合 計	14,194,312	3,233,812	17,428,124

30 年名古屋大会記録

昭和 30 年連合大会は 4 月 29 日から名古屋大学工学部（東山校舎）において開催，参加者約 1,900 人，盛況裡に滞りなく終了した。

特別講演 4 月 30 日午前 9～12: 時

挨拶 連合大会実行委員会
委員長 篠原 卯吉君

1. 空電について

名大空電研究所長 金原 淳君

2. 海外諸国電気学会の運営状況について

東工大教授 森田 清君

3. 戦後の経済復興と電源開発（特に中部地区の状況について）

中部電力社長 井上 五郎君

部門講演及び一般講演 4 月 29 日，30 日各午後，5 月 1 日午前，午後 13 会場において，部門講演 18 件，一般講演 884 件が行われた。

総親会 4 月 30 日午後 6 時から丸栄デパートにおいて開催，出席者約 400 名，篠原実行委員長の開会の辞について，愛知県知事，名古屋市長，名古屋工業大学々長，中部電力社長，淡沢博士，大山博士等のテーブルスピーチあり，名大学生の混声合唱，岐阜県郡上郡八幡町有志による郡上踊に興を添え盛会を極めた。

展示会 4 月 27 日から 5 月 8 日迄松坂屋において一般大衆を対照として「世紀の電気科学展覧会」を開催，参観者頗る多く好評であった。尚大会開期中は講演会場との間にバス定期便を運転，会員の参観に便した。

見学 5 月 2 日次の 7 班の見学を行った。D 班の外は全部バスを利用した。

A 班 佐久間，秋葉発電所，（館山寺宿泊）

B 班 三重火力発電所，鈴鹿通信学園（二見宿泊）

C 班 佐久間，秋葉発電所（日帰）

D 班 佐久間発電所（国鉄利用日帰）

E 班 丸山発電所，犬山（日帰）

F 班 名古屋市内

G 班 同

通信教育特別会計

(1) 損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
講 座 収 入	3,659,651	図 書 出 版 費	12,295,507
雑 収 入	57,499	業 務 費	1,697,098
期首末前受金差	43,924	管 理 費	3,186,127
図書頒布収入	14,028,381	期 首 商 品	1,186,837
期首末売掛金差	434,300	期 首 原 材 料	343,116
期 末 商 品	2,151,453	貸 倒 積 立 金	145,100
期 末 原 材 料	565,780	消 却 金	10,350
合 計	20,940,988	合 計	18,864,135
		収 支 剩 余 金	2,076,853

(2) 利益金処分

当期剰余金 2,076,853 円を収入の比率により公益事業 436,139 円、収益事業 1,640,714 円に分割して収益事業に対する納税引当金を定め

本 期 剰 余 金	2,076,853	納 税 引 当 金	660,000
前 期 繰 越 金	332,386	厚 生 積 立 金	500,000
合 計	2,409,239	元 入 金 繰 入	1,000,000
		後 期 繰 越 金	249,239
		合 計	2,409,239

を次の如く処分する。

(3) 貸借対照表

(昭和 30 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	7,256	未 払 金	338,600
銀 行 預 金	100,782	前 受 金	1,426,100
振 替 貯 金	117,000	元 入 金	4,000,000
売 掛 金	4,836,768	厚 生 積 立 金	1,000,000
商 品	2,151,453	貸 倒 積 立 金	145,100
原 材 料	565,780	納 税 引 当 金	660,000
備 品	40,000	繰 越 金	249,239
合 計	7,819,039	合 計	7,819,039

——浅野賞贈呈文——

貴下は夙に電子工学の研究に専念され、超短波、極超短波用真空管の開発に貴重な成果を挙げ、電子管に関する有益なる著述をなし、又多年後進の指導に当り多数の優秀技術者を養成せられた。特に近年電子工学応用技術研究の推進に致された功績は誠に大なるものである。

依て賞金贈与規程第二条により浅野賞を贈呈する。

昭和三十年五月二十一日

電気学会々長 石川 潔
工学博士 星合正治殿

電気学会新任、留任役員

会 長 駒形 作次
副 会 長 島津保次郎 古賀 逸策
白川 応則 林 重憲
総務理事 久野 清 下村 尚信
会計理事 林 潔 金岩 芳郎
編修理事 池田三穂司 中島 正道
百田 恒夫 山村 昌
調査理事 森脇 義雄 栗屋 潔
支 部 長

(北海道) 村井 五郎
(東北) 島山 四男
(東京) 広田 友義
(東海) 金原 淳
(北陸) 西岡 敬二
(関西) 大庭 忠夫
(中国) 岡田 邦彦
(四国) 石黒 美穂
(九州) 藤田 重明

評 議 員

(北海道) 小山田惣次郎 林 邦雄
(東北) 草刈 遜 大河原 旭
(東京) 喜安 善市 高木 純一
鳩山 道夫 三好義太郎
森 義雄 田中剛三郎
谷合 清一 沼野 鉄雄
林 卓 和田 弘
(東海) 高梨 辰三 三好 保憲

電力功績賞贈呈文

貴下等は関西電力株式会社において丸山発電所の建設に当り、その設計と工事とを担当せらる。すなわち国産品として記録的な大容量傘型水車発電機の採用、水車入口弁の省略等幾多新技術を採り入れ、我国における記録的大容量発電所を早期に完成せしめ、供給電力の拡充に貢献すると共に発電所建設技術の進歩に寄与せられたる功績は多大である。

依て賞金贈与規程第三条により電力功績賞を贈呈する。

昭和三十年五月二十一日

電気学会々長 石川 潔

伊藤 竜平殿

黒須 仁三殿

電力技術賞贈呈文

貴下は多年にわたり大電力発送電系統の諸問題の研究に精進せらる。すなわち送電線の安定度に関する各種の研究、原動機の調速機特性が送電系統の電力動揺に及ぼす影響、電力系統の周波数自動制御に関する研究、無効電力適正分布に関する研究等電力技術界の広汎なる主要問題を究明せられ、我国電力界に貢献せられた功績はまことに顕著である。

依て賞金贈与規程第三条により電力技術賞を贈呈する。

昭和三十年五月二十一日

電気学会々長 石川 潔

工学博士 埴野一郎殿

(北 陸) 米沢賢次郎 長田 晋吾

(関 西) 田中 哲郎 藤本 永三

矢幡 源三 岐美 忠雄

(中 國) 梶原勘三郎 真鍋 徳男

(四 国) 蒲原 理彦 片岡 恒

(九 州) 辻 節三 市川 真人

昭和 30 年度 予算

(1) 一般会計, 調査会計, 出版会計

収 入 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
会 費 収 入	3,557,000	3,237,000	7,396,000	14,190,000
正 員 会 費	3,280,000	0	6,102,000	9,382,000
准 員 会 費	0	0	635,000	635,000
特 例 会 費	85,000	0	0	85,000
入 会 金	192,000	0	0	192,000
終身会員寄附金	0	0	96,000	96,000
維持員会費	0	3,237,000	563,000	3,800,000
利 子 収 入	241,000	0	0	241,000
雑 誌 収 入	0	0	721,000	721,000
図 書 収 入	0	0	7,600,000	7,600,000
広 告 収 入	0	0	7,659,000	7,659,000
補 助 金	0	130,000	0	130,000
雑 収 入	3,000	0	0	3,000
繰 越 金	0	553,069	0	553,069
繰 入 金	53,000	0	497,000	550,000
合 計	3,854,000	3,920,069	23,873,000	31,647,069

支 出 の 部				
科 目	一般会計	調査会計	出版会計	計
事 務 所 費	85,700	68,300	477,000	631,000
事 務 費	1,358,100	868,100	3,640,800	5,867,000
会 議 費	100,000	50,000	50,000	200,000
通 信 費	90,000	45,000	45,000	180,000
集 金 費	334,500	66,900	267,600	669,000
旅 費	13,400	6,800	6,800	27,000
職員退職給与金	293,000	0	0	293,000
都 税	8,000	0	0	8,000
諸 会 費	45,000	50,000	0	95,000
支 部 費	1,105,000	0	0	1,105,000
大 会 費	100,000	0	0	100,000
賞 金 費	148,000	0	0	148,000
規格調査費	0	1,300,000	0	1,300,000
調査研究委員会費	0	1,260,000	0	1,260,000
雑誌出版費	0	0	13,050,000	13,050,000
図書出版費	0	0	6,099,000	6,099,000
予 備 費	173,300	204,969	236,800	615,069
合 計	3,854,000	3,920,069	23,873,000	31,647,069

(2) 通 信 教 育 特 別 会 計

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
講 座 収 入	3,600,000	教 材 費	13,000,000
大学講座	2,665,000	材 料 費	5,220,000
工高講座	935,000	印 刷 費	5,170,000
図書頒布収入	17,887,000	編 修 費	2,610,000
大学講座	12,314,000	業 務 費	1,830,000
工高講座	5,573,000	指 導 費	730,000
雑 収 入	50,000	通 信 費	300,000
利子収入	30,000	宣伝調査費	800,000
雑 収 入	20,000	管 理 費	3,620,000
		事 務 費	840,000
		給 与 費	2,440,000
		交 通 費	140,000
		雑 費	200,000
		予 備 費	3,087,000
合 計	21,537,000	合 計	21,537,000

支部連合大会講演論文集の
大会企画委員会
出版は取止め

連合大会企画委員会では、かねて各支部の意向も徴し、支部連合大会のあり方について研究していたが、

(1) 一応今後は支部連合大会講演論文集の大会企画委員会出版は取止めること。

(2) 全国大会については、その様式と予稿の出版は従来通りとすること。

(3) 支部大会については、格別の工夫のもとに実施せらるることを希望すること。

に決定した。これにつき企画委員会から各支部に送られた通牒の全文は次の如くである。

昭和 30 年 4 月 18 日

電 気 学 会
電 気 通 信 学 会
照 明 学 会

各支部長殿

電気三学会連合大会
企画委員会委員長

支部連合大会に関する件

拝啓 標記の件に関しては、先に御意見の御提出を願いましたのでありますが、これに基き 4 月 8 日本委員会を開催し検討の結果、下記に申し上げます理由に依り一応今後は「支部連合大会講演論文集の大会企画委員会出版は取止めること」と致しましたので御了承下さい。

従来から全国大会と支部大会とは同じ様な様式でありましたが、とくに全支部大会講演論文集の活版印刷以来全く同一となり、講演量の著増を来しましたことは結構なことではありましたが、これがため従来とかく批判の多かつた連合大会における講演の質の低下に対する批判の声も強くなり、毎年全国大会と支部大会の両者があることは結構であるが、両者は異った様式なり内容のものとし、支部の特徴を生かした異った性格を持つものである事が望ましいという結論に到達したのであります。

ついては、全国大会については尙改良すべきことは多々あるもこれは別に考究することとし、差向きその

様式と予稿の出版は従来通りと致す予定であります。支部大会については、前記の如く予稿の一括出版は取止めに致しましたので、上記の主旨を御含みの上支部大会開催については、格別の御工夫のもとに実施せられるよう致されたいのであります。

敬具

追て貴地方における行事の構想御決定の上は御一報下されたく申添えます。

今秋の支部大会は上記のような次第で、従来と趣を異にしてくる訳であるが、本稿の締切までに報告の来たものは次の 3 支部である。

東京支部 単独で大会を開く。本支部大会の講演は A 講演（大会企画委員会で予稿を出版したもの）のみで B 講演（支部で予稿を作成したもの）はなく、今回の変革は最も大きく響いている。しかし本支部は大会企画委員会決定の趣旨に同調し、今秋は別記会告にあるような企画の大会を開くことになった。周知の如く、5 月に支部長初め支部役員の数々が改選となる、この新役員が秋の大会の計画、しかも新構想のもとに計画を立てるには時間が足りない。又資金のうらづけがないと折角の名案も断念するより仕方がないなどの悪条件のもとに“とにかく今秋の大会は”と決定したものである。

九州支部 別記会告の通り三支部連合講演会を開催する。（本支部は従来から連合大会と云わない）本支部昨年秋の連合講演会の一般講演は A 講演 9 件、B 講演 36 件で、A 講演がすくないから今回の変革は別段の影響がない。

北陸支部 別記会告の通り二支部連合大会を開く。（照明支部がないので二支部）本支部の大会は 28 年即ち A 講演と B 講演が出来てから初まったものであるが、昨年秋は A 講演 5 件、B 講演 17 件で、ここも格別の影響はないようだ。